

科目名	情報処理試験春期対策ⅣA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	志水、久家、今村、村上、古賀、相原、 晶添、藤澤、木村、打越、久保山、姫 野、西野、山下		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 4年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋期対策ⅣA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 4年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	藤澤 昌聡		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 4年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを考慮したWebプログラミングの手法を学習し、安全なシステムを構築できる ・Webプログラムの脆弱性を診断できる 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				Webシステムにおける脆弱性の原因を特定できる	
		○				Webシステムの脆弱性を診断できる	
		○				Webシステムの脆弱性に対する対処ができる	
テキスト・教材 参考図書	SBクリエイティブ 体系的に学ぶ 安全なWebアプリケーションの作り方 第2版 脆弱性が生まれる原理と対策の実践						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	環境構築、HTTPとセッション管理				環境構築が時間内に完了できなかった場合、自宅等で完了させてくること	
	2	Webアプリケーションの機能と脆弱性の対応				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	入力処理とセキュリティ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	表示処理に伴う問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	SQL呼び出しに伴う脆弱性、「重要な処理」の際に混入する脆弱性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	セッション管理の不備、リダイレクト処理にまつわる脆弱性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	クッキー出力にまつわる脆弱性、メール送信の問題、ファイルアクセス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	WebAPI実装における脆弱性、認証				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	アカウント管理、認可、ログ出力				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	文字コードとセキュリティ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	脆弱性診断				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	Webサーバへの攻撃経路と対策、なりすまし対策、盗聴・改ざん対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	マルウェア対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	まとめ					
15							
評価方法	(1)各章での演習課題提出(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				40%
	課題提出		◎		○		40%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	卒業研究A					
科目名(英)						
単位数	18単位	時間数	280時間	担当者	藤澤 昌聡	
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	情報工学科 4年					
授業概要	在学中に学んだ知識、技術を生かし、新たなITソリューションの開発および技術研究を行う。 社会問題の解決や、最新技術の可能性を探求し、成果物としてシステムを構築する。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					システム開発における「企画」「設計」「開発」「テスト」「検証」ができる
	○					グループでの開発に必要な情報共有をスムーズに行うことができる
	○					技術的課題に挑み、調査、検証を繰り返し解決することができる
				○		グループ内での役割を全うし、さらに他のメンバーへのサポートもできる
テキスト・教材 参考図書	なし					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1～3	チーム編成、研究テーマ検討①			最新技術の情報収集および、社会の課題を調査	
	4～6	研究テーマ検討②				
	7～9	研究テーマ検討③				
	10～12	研究テーマ検討④				
	13～15	研究テーマ検討⑤				
	16～18	企画書作成①				
	19～21	企画書作成②				
	22～24	企画書作成③、企画書レビュー			企画書まとめ作業、および企画書レビュー準備	
	25～27	企画書レビュー、企画書修正				
	28～30	企画書再レビュー				
	31～33	基本設計①				
	34～36	基本設計②				
	37～39	基本設計③			基本設計レビュー準備 利用技術についての資料収集等	
	40～42	基本設計レビュー、基本設計書修正				
	43～45	詳細設計①				
	46～48	詳細設計②				
	49～51	詳細設計③				
	52～54	詳細設計④				
	55～57	詳細設計⑤				
	58～60	詳細設計⑥				
	61～63	詳細設計⑦				
	64～66	詳細設計⑧				
67～69	詳細設計⑨			詳細設計レビュー準備		
70～72	詳細設計⑩、詳細設計レビュー					
73～75	開発①					

	76～78	開発②					
	79～81	開発③					
	82～84	開発④					
	85～87	開発⑤					
	88～90	開発⑥					
	91～93	開発⑦					
	94～96	開発⑧					
	97～99	開発⑨					
	100～102	開発⑩					
	103～105	開発⑪					
	106～108	開発⑫					
	109～111	開発⑬					
	112～114	開発⑭					
	115～117	開発⑮					
	118～120	開発⑯、検証①					
	121～123	開発⑰、検証②					
	124～126	開発⑱、検証③					
	127～129	開発⑲、検証④					
	130～132	開発⑳、検証⑤					
	133～135	開発㉑、検証⑥					
	136～138	開発㉒、検証⑦					
	139～140	開発㉓、検証⑧、最終プレゼン	プレゼン資料準備、練習を行う事				
評価方法	(1)レビューを数回実施する。(2)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		○		◎		60%
	成果物提出	○	○		◎		20%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	就職実務Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	藤澤 昌聡				
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	情報工学科 4年								
授業概要	内定獲得に向けて希望企業に合格するよう、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策など指導を行う								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					自己分析を行い、自らの強みをPRすることができる			
	○					面接において、志望動機、自己PRを話すことができる			
	○					企業分析を行い、企業の強みや、将来性を理解することができる			
テキスト・教材 参考図書	なし								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応①				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	2	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応②				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	3	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応③				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	4	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応④				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	5	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑤				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	6	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑥				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	7	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑦				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	8	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑧				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	9	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑨				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	10	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑩				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	11	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑪				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	12	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑫				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	13	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑬				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
	14	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑭				希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事			
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	宿題・レポート				○		30%		
	出席状況				○		30%		
	授業態度				○		40%		
履修上の注意									

科目名	ビジネスコミュニケーションⅢ						
科目名(英)	Business CommunicationⅢ						
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科4年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的の裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる ・ビジネスを進める上で、論理的に物事を考え、実行する力が身に付く 						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書になる	
		○				論理的に物事を考えることができる	
		○				伝わるビジネスメールを書くことができる	
テキスト・教材 参考図書	技術者のためのテクニカルライティング入門講座(株式会社翔泳社 刊)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	テクニカルライティングとは(授業導入)				授業内容に係るレポート作成および提出	
	2	第1章 ロンカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識					
	3	第1章 ロンカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識				授業内容に係るレポート作成および提出	
	4	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					
	5	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	6	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック					
	7	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	8	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					
	9	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～				授業内容に係るレポート作成および提出	
	10	第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取扱説明書					
	11	第6章 実践編 提案書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	12	第6章 実践編 提案書					
	13	第7章 実践編 障害報告書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	14	第8章 実践編 社外メール文				授業内容に係るレポート作成および提出	
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							